

日本伝統治療（柔道整復術）指導者育成・普及プロジェクト

ドントゴビ県へのテキスト配布

2014年5月に柔道整復術テキストが完成し、今回、モンゴル国南東に位置するドントゴビ県の保健所を訪問してテキスト配布を依頼した。

派遣者：金井英樹（国際部）

矢口亜希（国際部）

指導者候補：オユンバートル・ダリンチュルン

日 程

3月16日

9:00 ホテル出発

13:00 ドントゴビ県保健所到着

14:00 テキスト贈呈・プロジェクト説明等（エンヒサイハン保健所長、ウッジーバヤル普及員）

16:00 ドントゴビ県県立病院視察



写真1 派遣員・指導者候補・ドライバー

エンヒサイハン保健所長は2007年の指導者講習会の際にも保健所長として勤務していたこともあり、2006年から開始している本プロジェクトについてご存知であり、柔道整復術に対して理解を示されていた。

ドントゴビ県では14000人の県民に対し、70人程の大医師、60人程のバグ医師が診療に携わっており、骨折が通院患者の中で3番目に多い疾病であり、医療機関では外傷に遭遇する機会が非常に多いとのことであった。



写真2 エンヒサイハン保健所長、ウッジーバヤル普及員



写真3 テキスト管理などの説明（ダリンチュルン指導者候補）

今後柔道整復術普及のためには、保健所を拠点とし普及員を介したネットワークづくりが急務であるが、保健所長からは外傷の治療に関する定期的なデータの提供と医療関係者間での定期的な勉強会の開催を行えるようにしたいとの意見や、大学の卒後研修をしている多くの医師たちにこのプロジェクトの講義への参加を促し、保存的治療の考え方や技術を身につけてもらいたいとの意見を頂戴した。我々も

普及員や指導者候補生を主体とした柔道整復術の講義を継続的に行えるようなシステムを具体化しなければならない。

テキストブック配布後、エンヒサイハン保健所長のご厚意でドントゴビ県県立病院の外来診療所と入院病棟を保健所職員に案内いただいた。外来診療所には大医師 1 名、准医師 6 名が勤務しており、その中には、以前我々が講義を行った UB の准医師科の卒業生が勤務していた。彼に話を聞くと日常診療で骨折患者に柔道整復術を用いて経過観察し、日常生活に支障を来さないレベルまで治療出来ているとのことで、我々は嬉しさを感じた。



写真 4 県立病院外来診療所にてバグ医師と



写真 5 県立病院外来診療所にて大医師と

入院病棟に於いては、オペ室の完備もある外科病棟を中心に、外科医師に案内いただいた。乗用車の普及に伴った、交通外傷の急増が問題となっており、病室にも交通外傷の入院患者が多くみられた。検査機器に関してはレントゲンの設置はあるが、CT、MRI は設置されておらず、ウランバートルの病院で撮影するとのことであった。案内いただいた外科医師に柔道整復術について尋ねると、以前の講習会についてご存知であり、次回の講習にはぜひ参加したいと話された。

日々、保存的治療を行う准医師だけでなく、観血的療法を行う大医師たちにも広く柔道整復術を理解してもらうことで医療機関内での治療方針にも幅ができ、よりよい医療を提供できる可能性があると考え。今後、地方とのネットワークを密にし、多くの情報を収集した上で柔道整復術の必要性を示せるように活動していきたい。



写真 6 県立病院入院病棟



写真 7 県立病院入院病棟にて外科医師と